



佐 潟 通 信

2010年12月

40号

◆今年の猛暑か？珍しい風景が・・・

今夏の佐潟の水面はハスが極端に少なく、その代わりにヒシが一面に広がり、さらに数百株のオニバスや、上潟ではミズアオイが生育し、2種類の絶滅危惧種の大群落で大変にぎやかになりました。

ハスの勢力がなかったことが主因と考えられますが、ハスが繁茂しなかった原因はよく分かりません。「春先の低温」説や「ハスの長期的周期」説などもありましたが、「かつて23年前にもこういうことがあったよ」と地元関係者から伺いました。いずれにしても23年ぶりの珍しい風景「一面のヒシ原」となりました。



◆夏休み特別企画 佐潟自然散歩 「いきもの観察と佐潟の湯舟」 2010年7月24日



佐潟ボランティア解説員が案内する「佐潟自然散歩」の特別企画を開催しました。普段の自然散歩にはない湯舟に乗る体験を加えて実施しました。

強烈な暑さの中、ボランティア解説員の分かりやすい案内と雄大な水上からの景観を楽しむことができました。

◆ぼくとわたしの夏休み 佐潟の昆虫だぁ！ 2010年7月25日

佐潟と歩む赤塚の会と共催で、夏のいきものを観察しました。新潟大学いきものサークル3名、新潟西高校生物部4名の学生が指導案内役になり、親子37名の参加者は佐潟水鳥・湿地センターから自然生態観察園へ向かいました。

途中、イトトンボやバッタを見つけましたが、子どもたちは「カブトムシ」や「クワガタムシ」に目を光らせながらの樹液部探しになりました。

案内役の学生は、生物多様性の大きさの理解できるように、また、捕まえ方などを伝授しながら子どもたちを上手に指導してくれました。観察舎から先では、水路の小魚やザリガニ獲りに親も子も熱が入りました。

観察を終えて湿地センターに戻り、佐潟のいきものの生態や自然のお話をして活動を終わりました。協力参加してくれた学生は「案内や解説は難しかったです。でも楽しかったです」との感想があり、今後も協力していこうということになりました。



自然生態園でわくわく



「こうやって網を使うよ」



「むずかしいな〜」

◆佐潟まつり 「佐潟万燈籠」 2010年8月29日



佐潟観光協会の主催で、佐潟を会場に、にぎやかに開催されました。

午後1時からのもとも神輿で始まり、鏡開きや、地元色豊かなステージショーと続きました。また、佐潟の産物の販売もあるテント村はととにもぎやかでした。

夕方には、中学生が松明で潟の大燈籠に点火し、大きな拍手が響きました。

夜は合わせて900個の湖面の「万燈籠」と桜並木から芝生広場の「もともとうろう」が情緒豊かに灯されました。



フィナーレの「みんなの花火」に感動！



＜特別開催＞ ◆佐潟ミズアオイ観察会

2010年9月1日～5日

絶滅危惧種ミズアオイの県内最大群落を観察することにより、佐潟の環境を理解し保全活動に寄与することを目的として、9月1日から5日連続で観察会を開催し、延べ70名の参加をいただきました。

ミズアオイ観察会の場所が普段、調査者以外は入ることのない上潟の中でしたので、安全対策を十分に図りました。参加者全ての方から「よかった」「感動でした」という声を聞くことができました。中には「一面のミズアオイとバックの角田山、こんな素晴らしい風景がこの日本にもあるのだ。ただただ感動！湿地センターの方々心から感謝申し上げます」との感想もいただきました。



◆潟普請 第9回佐潟クリーンアップ活動 2010年9月25日～26日



二日目の「鋤簾（じょれん）によるドロ上げ」作業を中学生主体で行いました。最初は慣れない手つきでしたが、次第にコツを覚え、何とも言えない異臭の中、黙々と作業を行いました。しかしドロとともに楽しんでる様子もありました。

一日目はヨシの刈払作業、二日目は運び出し作業と安全面を重視しました。指示の声もよく届く結果となり、100人近い参加者が手際よく作業できました。中学生も大人たちと運動し、とにかく一生懸命活動していました。



かつて住民で行ってきた「潟普請」に習い地元が主体となって佐潟の環境浄化を行うとともに、自然生態系の保全及び景観の改善を図ることを目的に、地元の各団体が中心となり佐潟クリーンアップ活動実行委員会を立ち上げて実施しました。

作業は、安全対策と労力分散、作業効率の観点から二日間に分けて行ないました。潟内のドロ上げ（湖底環境改善、水路の確保）とヨシ刈り（ヨシの吸収栄養分の潟外排出、生物多様性の確保）作業に分かれ、二日間で約180名の参加がありました。

閉会式では「来年以降も地域住民上げての潟普請とし、佐潟の環境保全を進めていこう」と実行委員長からのお話がありました。

◆もの潟(かた)り (ハスを使った作品づくり) 2010年10月24日

佐潟のハス（枯れトバス）を使っの「ハスフラワー」やハスの実を使っの「ハスの実ストラップ」の製作体験を地元で活動するグループ「佐潟村」の丹羽礼子さんを講師に佐潟水鳥・湿地センターで開催しました。

当日は来館者も参加し、大人から子どもまで合計17名の参加がありました。まず「ハスの実ストラップ」を作り、完成後「ハスフラワー」を作りました。いずれも講師の適切な指導で簡単にかつ見栄え良く仕上がり、参加者からは「楽しかった。面白かった」との感想があり、中にはいくつも作る参加者もいました。



↑ハスの実ストラップづくり

完成したハスフラワー→

←完成したストラップ

お知らせ 【佐潟探鳥散歩】

11～2月の毎月第2・4土曜日
7:30～9:00 参加無料
お申し込みは不要です。直接、佐潟水鳥・湿地センターにお越しください。風雪・風雨の場合、館内観察となる場合があります。

白鳥の飛び立ちに感動しませんか！

佐潟水鳥・湿地センター利用のご案内

【開館時間】9:00～16:30（冬期間11月から2月の土・日は7:00から）
【休館日】月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始

編集 佐潟水鳥・湿地センター
〒950-2261 新潟市西区赤塚5404番地1
電話025(264)3050 / FAX 025(264)3051
E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

発行 新潟市西区役所区民生活課
〒950-2097 新潟市西区寺尾東3丁目14番41号
電話025(264)7261

佐潟についての情報、質問等ありましたら、お気軽にご連絡ください。